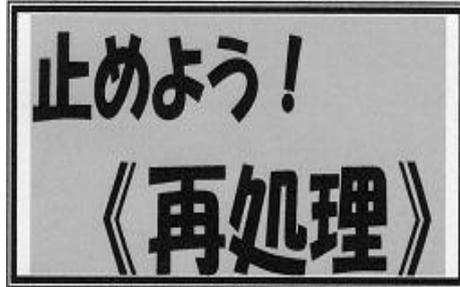
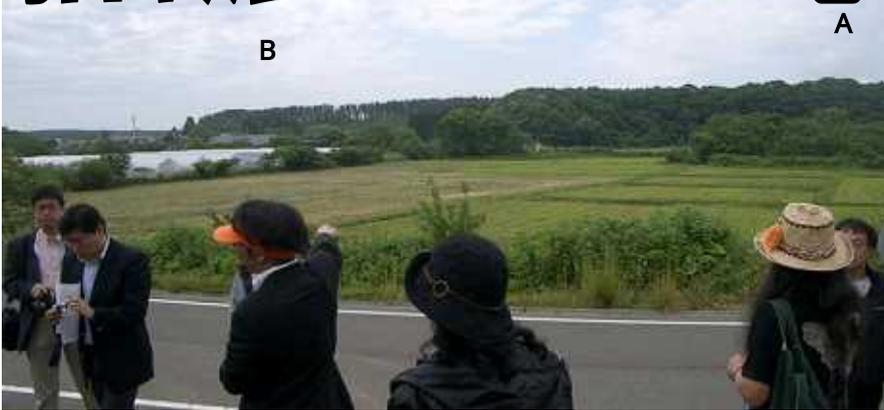


三陸の海を放射能から守る
 岩手の会
 郵便振替 02240-5-102650
 《岩手の環境 / RI 廃棄物 / 再処理》
<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>
 《まった再処理分庫》
http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



天恵の海を守ろう!
 2008 (平成20) 年
 6月 19日
 第55号
 編集事務局 S.Oshida
 TEL・FAX 019-623-1636

「直下に活断層説」 渡辺満久教授現地説明会 海岸段丘のたわみは地下に逆断層



北側から見た核燃施設などのある海岸段丘の撓(たわ)み
 渡辺満久教授(中央)説明。「本来、海岸段丘の上面は水平である。それなのに、海拔約30mの丘が海側に行くに従って10mくらいの低い丘になっている。これは、地下に活動的な逆断層があって、撓(たわ)みをもたらす『撓曲(とうきょく)斜面』を作るからである」



核燃施設の2kmほど南方を東西に走る道路の撓み
 (左下図F Eを見る)
 渡辺教授説明、「西側の向こうが急に登りになっており『撓曲崖』を形成している」

六ヶ所付近の撓曲地形図



老部川付近からの眺め
 (A) (B)
 渡辺教授が先ず記者団を案内した場所は、核燃工場のある台地の北側の老部川付近から南を見た地形でした。流れのゆるい老部川に対して、本来水平であるべき台地の上面が、海側で急速に低くなっている事を指さしながら、この台地の下には、活断層がある。沈み込みながら、台地をたわませていると説明しました。
 次に近くの出戸(で と)西方断層露頭を訪れ、地下活断層と地表地層の撓みの関係を説明しました。
 鷹架沿岸南付近道路の撓曲(E) (F)
 三番目の説明地点は鷹架(たかほ)沿の南付近を東西に走る道路でした。確かに、遙か西側の方は急に登り勾配になっていました。渡辺教授は、六ヶ所の海岸段丘の撓曲地形は南北に連続している。活断層が存在する疑いが明瞭である」と語りました。

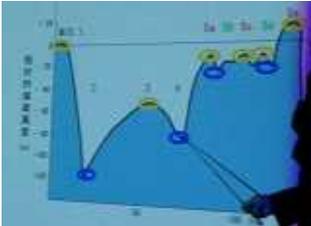
「六ヶ所村核燃施設直下に活断層説」を発表した渡辺満久東洋大学教授による現地説明会が、六月一日、六ヶ所村核燃サイクル工場周辺で報道各社を集めて開催されました。「岩手の会」からも、急遽二人を派遣し、取材しました。(記事まとめ・尚)

渡辺満久教授講演会

M8大地震、土地ズレ対応は万全か

講演の渡辺満久教授

渡辺教授「海面の上下が安定していた時代に作られた「海食ベンチ」は水平な地形を作る」



過去12万年前までの海面の上下は解明されている

「変動地形学」とは「私のドクター論文は『北上低地帯の地形変動』でした。変動地形学とは地面の変動を対象とし、「地理学」の分野に入れられています」と自己紹介したあと、地形の変動観察から「活断層」を読み解くことが出来ることを平易に説明

六ヶ所現地説明会のあと、渡辺満久教授は盛岡に移動し、同日夕刻から岩手教育会館で講演を行いました。「三陸の海を放射能から守る岩手の会」や「豊かな三陸の海を守る会」など四団体が実行委員会を結成しての、急遽の取り組みでしたが、十四日に「岩手宮城内陸地震」が発生し被害の様子が伝えられる中、約百人が集まり熱心に学習しました。後援の「原子力資料情報室」の澤井正子さんから、「六ヶ所再処理工場の現状」の報告がありました。

しました。

海岸段丘の上面は

本来は水平である

海面は地球の活動によって上下する。海面の上下が安定しているときに広い水平な「海食ベンチ」を形成する。それが、隆起すると「海岸段丘」を形作る。従って海岸段丘の丘の上は本来水平である。

海面の上下は過去十二万年前あたりのまでの数値は解明されている。六ヶ所工場のある「海岸段丘」も本来水平であるべきであるが、海側が大きく傾斜し、たわんでいることが問題な

のである。段丘形成以降も、地下に存在する「逆断層」が活動し、地震を起こし、東側の下降、すなわち撓みをもたらしたと考えるべきである。



「柔らかい堆積層」の下に「固い地層の逆断層」がある場合

核燃料サイクル施設のある台地のたわみは逆断層の存在を予測させる



「原燃コメント」へ 意見書送付

変動地形学の3氏

「活断層認定に関する学会発表報道」について日本原燃が、「いたずらに不安に陥れる内容の報道」とするコメントを発表した事に対して、変動地形学の渡辺教授ら3科学者は、「学術研究を否定するものであり、活断層認定に真摯な議論を避けるもの」とし、「意見書」を30日、日本原燃に送りました。原子力安全委員会で「活断層に関する安全審査の手引き」が審議されています。注視が必要です。



六ヶ所の海岸段丘は約十二・五万年前の形成で、それが断層活動で上下に動き、上層に積もった火山灰など堆積層がたわんだわけである。核燃工場敷地に活断層が及んでいる可能性六ヶ所台地の東側の撓みは核燃料サイクル工場敷地にも及んでいる。当然、地下に活断層の存在を疑うべきで、再点検

が必要である。活断層は地層の「ズレ」による被害をもたらす。土台や配管などの破壊は避けられない。大陸棚外縁断層に連続、最大M8級の地震の恐れ渡辺教授は、「下北半島の東側には百キロ以上も続く大陸棚外縁断層があるが、それに連続する活断層が六ヶ所付近を走っている。従って最大M8級の地震の恐れもある」とし、「海底の部分については、音波探査などの方法では十分な資料が得られず活断層について諸説に分かれるが、陸上部分については、調査が容易であり、真摯な討議がなされれば、活断層の状況が明瞭となる」と語り、学術的な究明の重要性を語りました。